

強者の戦略

【トルコ人の動向って実はかなり大事です。】

こんにちは、北林です。湿気の多い日がそろそろ続くようになってきました。体調管理には気をつけてくださいね。体調管理も受験対策の一つだと思ってがんばりましょう。

くどいようですが、案内しておきます。

研伸館では、夏前の受験生応援企画ということで「プレサマーフェスタ 2016」が開催されます

(<http://www.kenshinkan.net/event/Pre-Summer/>)

各校舎で独自の1日限定講座がありますが(もちろん無料!)、世界史で全校舎共通しているのが高3向けの「イスラーム史特講」。ぜひお友達をお誘い合わせの上、受講しに来てくださいね。

さて、解答作成へのワンポイントアドバイスです。改めて問題の確認です。

西暦8世紀半ば、非アラブ人ムスリムを主要な支持者としてアッバース朝が成立したことを契機に、イスラーム社会の担い手はますます多様化していった。なかでも9世紀以降、イスラーム教・イスラーム文化を受容した中央アジアのトルコ系の人々は、そののち近代に至るまでイスラーム世界において大きな役割を果たすようになる。この「トルコ系の人々のイスラーム化」の過程について、特に9世紀から12世紀に至る時期の様相を、以下の二つのキーワードを両方とも用いて300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

マムルーク

カラハン朝

用語を覚えていたらなんとかなる…というわけではない、そんな問題だったと思います。

今年も京都新聞さんのご依頼で解答速報を作成させていただきました。その際に載せていただいたのが、後に出てくる解答例です。

ユーラシアの歴史において、トルコ人の存在は欠かすことができません。入試で最近あまり見かけなくなった丁零・高車・鉄勒にはじまり、そして皆さんのよく知っている突厥。その突厥の次に有力になるウイグルなど中国王朝と関わりのあるトルコ系王朝も多いですね。

中央アジアあたりはトルコ人が広がり、「トルコ化」が徐々に進んでいきます。今でも中央アジアではトルキスタン、と呼ばれる地域がありますね。

またそのトルコ人がイスラームになり、彼らの活動とともにイスラームが拡大します。トルコ人のイスラーム化の問題は様々な大学で出されているので、教科書にある情報をしっかり確認しておいてくださいね。

強者の戦略

《ワンポイントアドバイス》

ここでは中央アジアのトルコ化についての話は必要ありませんので、イスラームが伝わっていく話のみ進めていきましょう。

まず中央アジアにイスラームの勢力が入って行くところから考えなくてはなりません。やはりイスラーム王朝であるアッバース朝が中央アジアまで勢力をもったことを忘れてはいけません。そして9世紀後半には中央アジアにはサーマーン朝が、アッバース朝を宗主国として自立します。このサーマーン朝がいろんな役割を果たします。アッバース朝は領土が広いんですが、そうになると軍事力を維持するのがなかなか大変。そこで遊牧民であったトルコ系の人達がアッバース朝へ軍人奴隷として連れてこられ、軍事力を担うことになります。これがマムルークです。サーマーン朝の領内には奴隷市場があって、そこから西アジアに送られていくんですね。トルコ人にイスラーム勢力との接点が生まれるのがわかります。

そしてトルコ人にイスラームという宗教が徐々に伝わると、トルコ人初のイスラーム王朝であるカラハン朝が10世紀に成立します。これはトルコ系ウイグル人の王朝です。この王朝によりトルコ人のイスラーム化は拍車がかかります。

問題には「9世紀から12世紀」とありますから、やはりトルコ系の王朝というと11世紀に成立したセルジューク朝は外せません。中央アジアのかつてソグディアナといわれたところから、イラン、そして小アジアまで勢力を拡大します。十字軍のきっかけになったことも、スルタンの称号をカリフからもらったことも皆さんならご存じのはずです。現在のトルコ共和国の領域にトルコ人が入ってくるのはセルジューク朝がきっかけですよ。オスマン帝国(オスマン＝トルコ帝国)も小アジアから興った王朝です。

さあ、どうだったでしょうか。解答例を確認してみてください。じっくり丁寧に考えると一つ一つはそんなに難しくはありません。もしイスラームが苦手なら、研伸館のプレサマーフェスタの「イスラーム史特講」に来てください。がっつり教えます。あ、最後に宣伝してしまいました…。

《解答例》

アッバース朝は軍事的弱体に伴い、遊牧民のトルコ人を軍人奴隷マムルークとして採用し、トルコ人のイスラーム化が始まった。10世紀にトルコ人最初のイスラーム王朝であるカラハン朝が成立してトルキスタンにイスラーム文化を導入しトルコ＝イスラーム文化の出発点となった。またサーマーン朝のマムルークはガズナ朝を建て、インドのイスラーム化を促進した。11世紀にはトルコ系のセルジューク朝がカリフよりスルタンの称号を受け、カリフを宗教権威のみとし、小アジアに入り十字軍遠征の要因となった。また領内各地にマドラサを設け、スンナ派教学の発展・普及につとめた。12世紀にセルジューク朝は分裂したが、後のオスマン帝国の起原となった。(300字)